

自衛官募集相談員会「北海道上富良野・旭川駐屯地研修」を支援



対空ミサイル短SAMを
研修する募集相談員



第2高射大隊長山口2佐と
募集相談員ら

神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 日比野准陸尉）は、11月15日から17日の3日間、横浜中央自衛官募集相談員会の部隊研修を支援した。

この研修は、自衛隊についての知識と理解の増進を目的に毎年実施されており、今回は齋藤会長以下7名が北海道にある自衛隊施設を訪れた。

1日目は、陸自上富良野駐屯地にて、概要説明を受けた後、90式戦車の体験試乗を行い、参加者たちはその乗り心地について貴重な体験と笑顔で話していた。

2日目は、陸自旭川駐屯地にて、広報担当者の案内により北鎮記念館を見学し、展示物を見ながらロシアの脅威と戦いつつ開拓に力を注いだ屯田兵についても学んだ。

体験喫食後、第2高射大隊を訪れた参加者は、大隊長山口2佐の歓迎を受けた。山口2佐は、本年7月まで神奈川地本募集課長を務め、募集相談員と一丸となり精力的に活動し成果をあげるなど、相談員とは懇意な関係である。

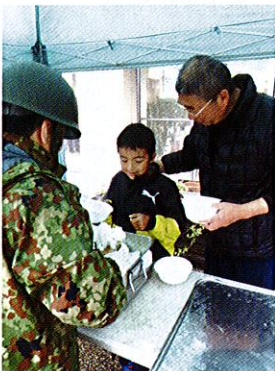
大隊長から、87式自走高射機関砲、93式近距離地对空誘導弾及び81式短距離地对空誘導弾（改）（短SAM）の3つの装備品が揃っているのは、高射特科部隊の中でも旭川のみであるとの説明があり、隊員による短SAMのデモンストラーションでは、砲身の素早い動きに参加者たちは驚いている様子だった。

3日目は、札幌地方協力本部を訪れ、地本長より概要や募集状況などについて説明を受け、懇談では互いに意見を交わした。

相談員は「貴重な体験をさせてもらい、有意義な研修となった」「募集相談員として更に見識を深めることができた」などと感想を述べていた。

横浜中央募集案内所は「部隊研修などを通じて、募集相談員の自衛隊への理解増進に努め、募集成果に繋げていきたい」としている。

神奈川県立相模三川公園「災害時の公園活用体験」において自衛隊をPR



炊き立てごはんを
受け取る児童

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山一海尉）は、10月14日（土）、15日（日）の両日、神奈川県立相模三川公園（海老名市上郷）が主催する「災害時の公園活用体験」において、小学生とその家族ら約50名に対し、自衛隊の活動をPRした。

1日目は、同公園パークセンターにて「東日本大震災」での災害派遣活動について、所長が映像を交えながら講話を実施し、入浴支援の様子を見た児童は「お風呂のお湯は、どうやって持ってくるの」「大きいから、みんなで入れるね」などと話し、次々と映し出される装備品に興味津々の様子だった。

2日目は、久里浜駐屯地に駐在する中央野外通信群の支援を受け、野外炊具による豚汁と米飯の炊き出しを行い、参加者は食事を体験した。調理の様子を見学しに集まった参加者は「一度に何人分作れるんですか」「煮るのも、炊くのもできるんですね。揚げものもできますか」などと質問し、調理を担当する四元 愛子3曹は、笑顔で質問に答えていた。

厚木募集案内所は「今後も部隊と綿密に連携し、地域に根付くような広報活動に励み、防衛基盤の拡充に努めていきたい」としている。



配食する中野通群四元
3曹と公園スタッフ



食事を体験する親子



炊き出しの準備をする
中野通群の隊員